

国語 2年

1. 国語科の学習について

学習のねらい	○自分のものの見方や考え方を深め、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする。 ○様々な材料を基にして自分の考えを深め、自分の立場を明らかにして論理的に書き表す。 ○目的や意図に応じて文章を読み、広い範囲から情報を集め効果的に活用する。 ○読書を生活に役立て、自己を向上させようとする。	
主な学習内容	・オリエンテーション ・多様な視点から（説明的文章、話す聞く） ・関わりの中で（文学的文章、説明的文章） ・論理を捉えて（文学的文章、話す聞く） ・漢字、語句、文法	・広がる学びへ（詩歌、文学的文章、古文、書く） ・言葉と向き合う（詩歌、文学的文章） ・いにしえの心を訪ねる（古文、書く） ・表現を見つめて（文学的文章、書く） ・書写（毛筆・硬筆）
授業形態	一斉・少人数・4人班を活用する。	
使用教科書 ・教材	・国語2（光村図書） ・基礎の学習2（新学社） ・すらすら基本文法（浜島書店） ・新しい書写1・2・3年（東京書籍） ・学習漢字練習ノート2（浜島書店） ・国語便覧（浜島書店）	

2. 評価の観点と評価の方法

評価の観点		評価の方法
関心 意欲 態度	・学習に意欲的に取り組むことができる。 ・忘れ物をせず、宿題や提出物を確実にこなすことができる。 ・学習したことを生活に活かそうとしている。 ・教材を通して、自分のものの見方や考え方を深めることができる。 ・古典に対して興味・関心を持ち、意欲的に音読・暗唱することができる。	・自己評価表 ・観察（授業中の活動の様子） ・ノート、提出物 ・暗唱等の課題
話す 聞く 能力	・適切な語句や文の効果的な使い方など、説得力のある表現の仕方に注意して話すことができる。 ・相手の立場や考えを尊重して聞くことができる。 ・話の中心の部分と付加の部分、事実と意見との関係に注意して、論理的に話したり聞いたりすることができる。 ・話し合いを通して自分の考えを広めたり深めたりすることができる。	・観察（授業中の活動の様子） ・聞き取りテスト ・スピーチ、パネルディスカッション等の課題
書く 能力	・広い範囲の中から課題を見つけることができる。 ・自分の立場、伝えたい事柄を明確にして書くことができる。 ・文章の構成や論理の展開を工夫して、説得力のある文章を書くことができる。 ・書くことを通して自分の考えを深めることができる。	・定期テスト ・ノート ・作文等の課題
読む 能力	・文脈の中における語句の効果的な使い方について理解することができる。 ・論理の展開の仕方や表現の仕方、文章の特徴を正確にとらえて内容を理解することができる。 ・読むことを通して自分の考えを新たに持つことができる。	・定期テスト ・ノート、プリント
言語 事項	・新出漢字の読み書きができる。 ・抽象的な語句の意味を理解し、語彙を豊かにすることができる。 ・文法を正しく理解できる。 ・字形、文字の大きさや配列・配置に配慮し、目的や必要に応じて書くことができる。	・定期テスト ・書写作品

3. 第2学年 国語科 年 間 計 画

時	単元	学 習 内 容	学習内容を通して身につけたい力
1 学 期	広がる 学びへ 視点を 定めて 言葉と 向き合 う	オリエンテーション 「見えないだけ」 「アイズプラネット」 「枕草子」 「生物が記録する科学— バイオロギングの可能 性—」 語句 話す・聞く 「新しい短歌のために」 「短歌を味わう」 文法 書写	・授業について知る。 ・言葉の用い方や表現に注意し、感想をもつことができる。 ・登場人物の言動や心情を表す表現などに注意して、作品を読み取ることができる。作品に表れているものの見方や考え方について、自分の経験と関連付けて考えをもつことができる。 ・作者の四季の捉え方に触れ、自分の考えをもつことができる。 ・文章の構成や展開のしかた、事実と意見の示し方に注意して、説明の特徴を捉えることができる。内容を的確に捉え、ものの考え方や見方を広げることができる。 ・類義語、対義語、多義語の意味や用法を理解し、使うことができる。 ・聞き手を意識して、材料を集め、整理し、説明することができる。 ・短歌に示された語句の効果的な使い方や文章の描写の効果を理解し、短歌の世界に親しむことができる。 ・敬語の働きを理解し、使うことができる。(2学期より移動) ・活用しない自立語の働きを理解し、使うことができる。 ・行書の特徴を理解して、書くことができる。
2 学 期	関わり の中で いにし えの心 を訪ね る	「字のない葉書」 「モアイは語る」 「扇の的」 「仁和寺にある法師」 「漢詩の風景」 話す・聞く 語句 文法 書写	・登場人物の人柄や心情を捉えることができる。 ・文章の構成や展開に着目して、筆者の主張を捉えることができる。 ・文章の内容について、図表を用いてまとめることができる。 ・古典の文章に触れ、古文の言葉遣いやリズムを捉えることができる。 ・登場人物の心情や行動から、自分と比較しながら、作品に描かれた考え方や物の見方を捉えることができる。 ・漢詩独特の言葉遣いやリズムを捉えながら読み、漢詩に親しむことができる。 ・相手の立場を尊重し、説得力のある話し方ができる。 ・同音意義語を理解し、使うことができる。 ・活用しない自立語の働きを理解し、使うことができる。 ・用言の活用について理解することができる。(1学期より移動) ・行書と調和した仮名を理解し、気をつけて書くことができる。
3 学 期	論理を 捉えて 表現を 見つけ て	「君は『最後の晩餐』を知 っているか」 話す・聞く 「走れメロス」 「科学はあなたの中にあ る」 文法 書写	・筆者の考え方を正しく捉え、自分の体験と関連付けて自分の考えをまとめることができる。 ・発言を比較検討しながら討論し、自分の考えを広げることができる。 ・描写や会話に着目し、人物像の変化を捉え、自分なりの文章で表現することができる。 ・筆者の主張を正しく捉え、自分の知識や考えと結び付けて考えをまとめることができる。 ・用言の活用について理解することができる。(1学期より移動) ・付属語の働きについて理解することができる。 ・行書と調和した仮名を理解し、気をつけて書くことができる。

4. 学習の進め方

1. 授業前に必要な道具は全て机上に用意し、余裕があればその日学習する教材を黙読する。
2. 自分の考えと仲間の考えを交流させることで自分の考えを広めたり深めたりする姿勢を大切にする。
3. ノートやプリントはもれなく書き記す。課題には全力で取り組む。
4. 家庭では教科書をしっかり読むとともに、漢字の学習と意味調べ（ワーク）を行う。
5. 文章を読む習慣を身に付ける。(自由読書だけでなく、新書や新聞など幅広く)

社会 2年 地理的分野・歴史的分野

1. 社会科の学習について

学習のねらい	【地理的分野】 地域調査など具体的な活動を通して、地理的事象に対する関心を高める。広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の地域的特色を考える。各地域の規模に応じた環境条件や人間の営みなどに関連付けて理解する。また、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養い、様々な地域が相互に関連して成り立ち、それらを比較して考える力を身につける。 【歴史的分野】 歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色を世界の歴史を背景に理解し、それらを通して我が国の文化と伝統の特色を広い視野に立って考える。生活の向上やさまざまな発展に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産や歴史に見られる国際関係・文化交流などから、我が国の愛情を深め国民としての自覚を育む。
主な学習内容 授業形態	【地理的分野】 日本のおもな地域 3 中世の日本（武士と民衆の生活～） 【歴史的分野】 4 近世の日本 5 開国と近代日本の歩み 一斉・グループ学習
使用教科書・教材	【地理的分野】 教科書名：中学生の地理（帝国書院） 教材名：ビジュアル地理（とうほう） 社会の自主学習（新学社） 【歴史的分野】 教科書名：新しい社会 歴史（東京書籍） 教材名：つながる歴史（浜島書店） 社会の自主学習（新学社）

2. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	歴史的分野・地理的分野	評価の方法
社会的な事象への関心・意欲・態度	社会事象に関心をもち、それを意欲的に追求することを通して、よりよい社会を考えるとともに、責任を果たそうとする。 地理的事象に関心をもち、それを意欲的に追究して、広い視野から我が国の国土の特色や日本と世界の結びつきについて認識を養おうとする。	・授業における意欲的な発表など ・ノートやワーク等の作成および提出状況 ・課題（夏休みの課題など）への取り組み ・忘れ物 ・小テスト
社会的な思考・判断	社会事象から課題を見出し、多角的・多面的に考察して、社会の変化に的確に対応し、公正に判断する。 地理的事象を多面的・多角的に考察し、各地域の人々の生活の地域的特色を把握して、公正に判断する。	・定期テスト等 ・課題（夏休みの課題など）への取り組み
資料活用 の技能・表現 社会的な事象について の知識・理解	平素から各種の資料に親しみ、効果的に選択し、活用するとともに、それらに基づいて資料を適切に作成する等、その効果を幅広く表現する。 地図、統計など地域に関する様々な資料を適切に選択し活用するとともに、レポートなどを作成する。 社会事象の意義や特徴、相互の関連を理解し、知識を身につけている。 世界を大観し、日本とその諸地域のおもな地理的事象や日本と世界の結びつきなどについて、他地域と比較、関連させて理解し、それに関する知識を身につけている。	・定期テスト等 ・課題（夏休みの課題など）への取り組み ・定期テスト等

3. 年間計画

	単元	学 習 内 容	学習内容を通して身につけたい力
1 学 期 ／ 2 学 期	日本のさまざまな地域	日本の姿	- 世界における日本の位置や日本の地域区分, 世界と比べた日本の地域的特色, 日本の諸地域的特色, 地域の課題を, 地誌的考察や身近な地域の調査を通して学び, 日本の地理的認識やそれに関連する技能を養う。 - 世界的視野から日本を1つの地域として追究したり, 日本全体の視野からおおまかな国内地域差を追究したりすることで, わが国の国土の特色を捉えさせる。
		日本の諸地域 九州地方 中国・四国地方 中部地方 関東地方 東北地方 北海道地方	日本の諸地域について, 自然環境委, 歴史的背景, 産業, 環境問題や環境保全, 人口や都市・村落, 生活・文化, 他地域との結びつきといった面から追究し, 地域的特色を理解する。
2 学 期 ／ 3 学 期	3 中世の日本	① 武士と民衆の生活と文化	東アジアとのかかわりから室町時代の特色について理解する。
		② 東アジア世界との関わりと社会の変動	- 室町時代の社会の仕組みを理解し, 変化の様子を読み取る。 - 室町時代の文化や民衆の生活を理解する。
	4 近世の日本	① 江戸幕府の成立と鎖国	江戸幕府の政治の特色について考える。鎖国化の対外関係に気づく。
		② 産業の発達と幕府政治の動き	- 産業, 交通などの発達, 町人文化の形成を理解する。 - 幕府の政治改革と政治の行き詰まりを理解し, 新しい学問や思想の展開に気づく。
	5 開国と近代日本の歩み	① 欧米の進出と日本の開国 ② 明治維新 ③ 日清・日露戦争と近代産業	- 市民革命や産業革命を経た欧米諸国のアジア進出を背景に, 日本の開国とその影響について理解する。 - 明治維新の経緯のあらましを理解し, 新政府の諸改革により近代国家の基礎が整えられたことに気づく。 - 急速に近代化を進めた我が国の国際的地位の向上と, 大陸との関係のあらましを理解する。 - 我が国の近代産業と国民生活の変化を理解するとともに, 近代文化の形成と文化の大衆化に気づく。

4. 学習の進め方

＜学校＞	- 授業中は教科書, ノート, 資料集を開け, 先生の話を中心して聞こう。 - 黒板に書かれたことや自分で気づいたことを, ノートに工夫してまとめよう。 - 授業での発問などには, 積極的に参加して発表しよう。 - ノート, ワークなどの提出物は, 期日を守ろう。
＜家庭＞	- 授業で習ったところはワークで確認しておこう。定期テスト前に, もう一度復習しよう。 - テストで間違えた問題は復習しておこう。 - 予習として, 教科書を読んでおこう。 - ニュースなどで気になった地名などを, 地図帳を使って調べてみよう。 - ニュースや時事問題などに関心を持って, 疑問に思ったことを調べてみよう。

数学 2 年

1. 数学科の学習について

学習のねらい	数量・図形などに関する用語や計算法則などの理解を深め、式を書いた計算や説明ができるようになります。 日常のことがらについて数学を使って考える力をつけるとともに、数学的活動の楽しさや数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を身につけます。 ◆式の計算・・・目的に応じて式を計算したり変形したりする。 ◆連立方程式・・・連立方程式について理解し、それを用いて課題を解決する。 ◆一次関数・・・具体的な事柄を調べることを通して一次関数を理解する。 関数関係を見だし、表現する。
主な学習内容	◆図形の調べ方・基本的な図形の性質を理解する。 ◆図形の性質・・・筋道をたてて考え論証する方法を理解し、その過程を的確に表現する。と証明 ◆確率・・・具体的な事柄についての実験等を通して確率の考え方の基礎を理解し、確率を求める。
授業形態	ティーム・ティーチング（TT）で授業を行います。授業の中で、グループ学習を行うことがあります。
使用教科書 ・教材	未来へひろがる数学2（啓林館） 図形テキスト（三泗中学校数学教育研究協議会） 数学リポート学習（正進社）

2. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評 価 の 内 容	評価の方法
数学への 関心・意 欲・態度	様々な事象を数量や図形などでとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考えることに興味をもっている。また、数学的に問題を解決しようとする。	・授業中の様子 ・ノート、宿題、提出物の取り組み状況
数学的な見 方・考え方	数学的な見方や考え方を身に付け、事象の中にある関係や法則を見だし、論理的に考察することができる。	・授業の様子 ・定期テスト ・小テスト等
数学的な 技能	文字式の計算ができる、数量の関係や法則を式・グラフなどに表すことができる、数量の関係について連立方程式を用いて解くことができる、図形の性質を使うことができる、図形の性質について筋道をたてて表現することができるなど、数量や関数、図形、確率について、数学的に表現したり処理したりすることができる。	・授業の様子 ・定期テスト ・小テスト等
数量、図形 などにつ いての 知識・理解	文字式の四則計算、連立方程式、一次関数、平面図形の性質、確率などの基礎的概念、原理、法則などについて理解することができる。	・授業の様子 ・定期テスト ・小テスト等

3. 年間計画

時期	単元	学 習 内 容	学習内容を通して身につけたい力
1 学期	1 年の復習 式の計算 連立方程式	・1 年の復習 ・式の加法、減法 ・いろいろな多項式の計算 ・単項式の乗法、除法 ・文字式の利用 ・連立方程式とその解 ・連立方程式の解き方 ・連立方程式の利用	・1 年の内容を復習し、2 年の学習内容に結びつける。 ・文字式の加法・減法及び単項式の乗法、除法の計算ができる。 ・数量及び数量の関係をとらえるために文字式を利用できる。 ・目的に応じて式を変形できる。 ・連立方程式とその解の意味を理解できる。 ・連立方程式を解くことができる。 ・連立方程式を利用して、課題を解くことができる。
2 学期	一次関数 図形の調べ方	・一次関数 ・一次関数の値の変化 ・一次関数のグラフ ・一次関数の式を求めること ・方程式とグラフ ・連立方程式とグラフ ・一次関数の利用 ・角と平行線 ・多角形の角 ・三角形の合同 ・証明とそのしくみ ・合同条件を使った証明の進め方	・具体的な事象の中から2つの数量を取り出し、それらの変化の様子や対応を調べることで一次関数について理解できる。 ・一次関数の傾きや切片、変化の割合、グラフの特徴を理解できる。 ・一次関数を利用して、課題を解くことができる。 ・二元一次方程式を、関数を表す式とみることができる。 ・平行線や角の性質を理解し、それをもとにして図形の性質を確かめることができる。 ・平行線の性質や三角形の角についての性質をもとにして、多角形の角についての性質を見い出すことができる。 ・証明の意義と方法について理解できる。
3 学期	図形の性質と証明 確率 箱ひげ図とデータの活用	・二等辺三角形 ・直角三角形の合同 ・平行四辺形の性質 ・平行四辺形になる条件 ・長方形、ひし形、正方形 ・平行線と面積 ・確率の意味 ・確率の求め方 ・データの分析と問題解決	・三角形の合同条件、直角三角形の合同条件を理解し、それに基づいていろいろな図形の性質を論理的に確かめることができる。 ・平行四辺形の性質、平行四辺形になる条件を理解し、それに基づいていろいろな図形の性質を論理的に確かめることができる。 ・底辺が共通な三角形の性質を理解し、それに基づいて平行線を用いた等積変形を行うことができる。 ・不確定な事象が起こりうる程度を表す確率の意味を理解することができる。 ・簡単な場合について確率を求めることができる。 ・箱ひげ図や四分位範囲の必要性和意味を理解できる。 ・箱ひげ図を作成したり、四分位範囲を求めることができる。 ・箱ひげ図や四分位範囲を用いて、複数のデータの傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断できる。

4. 家庭学習の進め方

1. 復習を中心に学習する。→その日に習ったことはその日に理解できるようにする。
 - ・授業中解いた問題をもう一度解く。
 - ・教科書の問や例題について、答えを見ずに解く。(分からなかった場合、答えを見てから解いた場合は、もう一度見ずに解くとよい。) 教科書を読み数学の用語等に慣れることも大切です。
 - ・問題練習・・・リピート学習のB問題・オープンセサミを解いてみる。難しい場合は答えや解説を見て考える。答えや解説を見て分からない場合は質問する。
2. 宿題は必ず行うこと。→宿題を出すので、必ず宿題をする。
3. 少しずつでもよいので、毎日自宅で勉強する。→常に授業以外で勉強する習慣をつけていく。

理科 2 年

1. 理科の学習について

学習のねらい	1. 身近な自然の事物や身の回りの現象に興味や関心を高めます。 2. 問題解決に向けて目的をもって観察や実験などを行い、科学的に調べる能力や態度を身に付けます。 3. 身近な自然の事物や身の回りの現象について理解を深めていきます。 4. 事物や現象について科学的に見て考える力を身に付けます。
主な学習内容	【エネルギー】 電流 【物質】 化学変化 【生命】 動物 【地球】 天気 活きている地球
授業形態	・教室または理科室で一斉授業の形で行います。 ・実験や観察などにおいて、男女混合の9班（1班3～4名）編成で行います。班での活動を大切に、予想をたてるときや結果をまとめるときなどに、班で話し合った後、発表します。
使用教科書・教材	・教科書「未来へひろがるサイエンス」（啓林館）1年用と2年用・理科便覧（浜島書店） ・理科学習ノート（吉野教育図書1年用と新学社2年用）・理科の自主学习（新学社1年用と2年用）

2. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	エネルギー・物質	生命・地球	評価の方法
自然事象への関心・意欲・態度	物質やエネルギーに関心をもち、意欲的に調べようとする活動を行うとともに、現象を日常生活と結びつけて考察しようとする。	生物とそれを取り巻く自然に関心をもち、意欲的に調べようとする活動を行うとともに、自然環境を守り生命を尊重しようとする。	・定期テスト、小テスト ・授業中の発言や姿勢 ・ノートやワーク等の作成状況 ・課題（夏休みの課題など）への取り組みなど
科学的な思考・表現	物質やエネルギーに関する現象の中に問題を見つけ、解決方法を考えて、観察、実験などを行う。 現象を大きな目で見て、全体をつかもうとするとともに、小さな目で細かな変化も見ること、現象が起こる要因や仕組みを総合的に考えることにより、現象を論理的、客観的に考察して問題を解決する。	生物とそれを取り巻く自然の事物や現象の中に問題を見つけ、解決方法を考えて、観察、実験を行う。 自然の事物や現象を時間的な変化や、空間と関係付けてみて、現象の生じる要因や仕組みを分析したり、総合的に考えたりすることにより、事象を論理的、客観的に考察して問題を解決する。	・授業における発言内容 ・ノートやワーク等の作成状況（実験のまとめ・考察等） ・課題（夏休みの課題など）への取り組み ・定期テストなど
観察・実験の技能	物質やエネルギーに関する現象についての観察、実験の基本操作を習得する。 観察、実験の計画、実験による検証、結果の記録・考察など、調べていく過程を通して規則性を見つけたり、自分の考えを導き出したりして創意ある観察・実験記録や発表を行う。	生物とそれを取り巻く自然の事物や現象に関する観察、実験の基本操作を習得する。 観察、実験の計画、実施、結果の記録・考察など調べていく過程を通して規則性を見つけたり、自らの考えを導き出したりして創意ある観察・実験記録や発表を行う。	・レポートやノートやワークの作成状況（実験の記録・まとめ等） ・観察・実験への取り組みの様子 ・定期テストや実技テストや小テストなど
自然事象についての知識・理解	観察や実験などを通して、物質やエネルギーに関する事物・現象についての原理・法則や基本的な内容を理解し、知識を身に付けている。	観察や実験などを通して、生物とそれを取り巻く自然の事物や現象に関する原理・法則や基本的な内容を理解し、知識を身に付けている。	・ノートやワーク等の作成状況など ・定期テストや小テストなど

3. 年間計画

時期	分野	単元	学 習 内 容	学習内容を通して身につけたい力
1 学期	地球	活きている地球	大地が火をふく 火成岩・深成岩 大地は語る 地層、化石、たい積岩 大地の変化	○火山や火山の噴出物の形状とマグマの性質との関係に気付く。 ○火成岩は、火山岩と深成岩があり、その組織と成因の違いを理解する。 ○堆積岩と化石を手がかりとして過去の環境と年代を推測する。 ○地層のつき方、重なり方の規則性を発見する。
	物質	化学変化と原子・分子	物質の成り立ち 炭酸水素ナトリウムの加熱 水に電気を通す 分子モデルの利用 物質を表す記号 さまざまな化学変化 混合物の加熱 酸化還元反応 発熱・吸熱反応 化学変化と物質の質量の規則性 化学変化前後の物質全体の質量の測定（2学期へ）	○物質を分解する実験を行い、分解して生成した物質からもとの物質の成分が推定できることを見いだす。 ○物質は原子や分子からできていることを理解し、原子は記号で表されることを学習する。また、化学変化は原子や分子のモデルで説明できること、化合物の組成は化学式で表されることを理解する。 ○化合することで、反応前とは異なる物質が生成することを見いだすとともに、それらの変化を原子や分子のモデルを用いて説明できること、化学反応式で表すことができることを理解する。 ○金属酸化物を還元したときの化学変化について、説明する。 ○化学エネルギーと熱の出入りの関係を理解する。 ○化学変化に関係する物質の質量を測定する実験を行い、化学変化には規則性があることを見いだす。（2学期へ）
2 学期	生命	動物の生活と生物の進化	生物の体と細胞 タマネギとホオの細胞 生命を維持するはたらき だ液のはたらき 血液の流れ 感覚と運動のしくみ 刺激から反応までの時間 動物のなかま アサリの生活と体のつくり 生物の移り変わりと進化	○動物の生活の様子と体のつくりは、密接に関係していることを理解する。 ○動物が刺激を受けとってから反応するまでのしくみを理解する。 ○動物が生命を維持するためのしくみを理解する。 ○植物と動物の細胞のつくりの共通点と相違点を理解し、説明する。 ○脊椎動物と無脊椎動物を含む動物の世界全体を整理し、総合的に捉える。 ○動物と植物を含む進化の全体像を理解する。
	エネルギー	電流の性質とその利用	電流の性質 電流・電圧の測定 電流と電圧の関係 水熱量計での測定 電気の正体 静電気による力 電流と磁界 電流が磁界から受ける力 電流の発生（3学期へ）	○静電気の性質について調べ、電流の正体について理解する。 ○回路の基本的な性質や、電流と電圧の関係について規則性を見いだすとともに、実験機器の操作や実験結果の処理についての技能を習得する。 ○電流を利用して熱や光、音などを発生させたり物体を動かしたりすることを見いだし、電流のはたらきについて規則性を理解する。 ○電流の正体は電子の移動であることを理解する。 ○電力と時間から熱量を正しく計算する。 ○直流と交流の違いを理解する。（3学期へ）
3 学期	地球	地球の大気と天気の変化	空気中の水の変化 露点を調べる 雲をつくる実験 天気の変化と大気の動き 立体天気図の作成 大気の動きと日本の四季	○地球上の水はさまざまな状態で存在し、雲、雨や雪はその循環の一部であることを認識するとともに、大気中の水の変化について考える。 ○大気の動きを立体的に考え、大気の動きが天気に関係していることを理解する。 ○温度による空気の動きを理解し、これが天気変化に関係していることに気づく。また、高気圧・低気圧の動く様子から天気の予測ができることを理解する。 ○日本の四季の天気の特徴と、それが生じる仕組みを説明する。

4. 学習の進め方

<授業> ・授業に積極的に参加しよう ・学習した内容と、身の回りの自然や事物・現象との関連を図ってみよう。 ・「何」を「どのように」調べたいか等の目的をしっかりと持って、観察や実験に取り組もう。 ・板書の内容を書き留めたり、気づいたことをノートに記入していこう。 ・観察や実験のデータや結果からわかったことを整理しましょう。 <家庭学習> ・身の回りの自然や事物・現象を不思議だなという目で見て、疑問や問題をもとう。 ・理科ノートの穴埋め等に取り組み、重要語句を確実に覚えよう。 ・学習した内容は、ワークで確認しておこう。

音楽 2 年

1. 音楽科の学習について

学習のねらい	○表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。 ○音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を身につける。 ○多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。 ○多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。
主な学習内容	<表現>・・・歌唱 『夢の世界を』 『翼をください』『夏の思い出』『若い緑の歌』 『OUR MIDORI ～自然とともに～』 合唱曲 ギター <鑑賞>・・・『春』第1楽章（「和声と創意の試み」第1集「四季」から） 交響曲第5番ハ短調 『小フーガ ト短調』
授業形態	一斉で行います。パート（ソプラノ・アルト・男声）別の練習もあります。
使用教科書 ・教材	教科書・・・中学生の音楽2・3上（教育芸術社） 中学生の音楽2・3下（教育芸術社） 教材・・・My Song（教育芸術社）

2. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の内容	評価の方法
音楽への関心 ・意欲・態度 音楽表現の創意工夫	- 忘れ物をせず、積極的に授業に参加している。 - 演奏、歌唱の際、集中して練習に取り組んでいる。 - 教師の指示やアドバイスを聞き、上達しようと努力している。 - 歌唱の声の質（響き）、発音、発声に気をつけて取り組み、音楽をより美しいものにしようと、音色や強弱など、曲想やイメージをふくらませ工夫することができる。 - 歌唱の際に歌詞の内容を表現できている。 - ブレスのやり方など、音楽的に演奏できる。 - 他の声部を意識しながら歌ったり、演奏できたりしている。	- 準備物・提出物の状況 - 毎回の授業の態度、姿勢 - 授業中の発言内容 - 実技テスト - 定期テスト - 歌唱の際の、声の質（響き）、発声の様子、発音の工夫 - 毎回での授業での演奏においての、フレーズのとらえ方やブレスの仕方 - 定期テスト - 実技テスト
音楽表現の技能 鑑賞の能力	- 歌唱の際の音程が正確である。 - アクセントやリズム、強弱を適切に演奏に活かしている。（音楽記号、標語の理解） - 範唱や仲間の演奏や発表を熱心に聴くことができる。 - 鑑賞曲を聴き、作曲者の意図・心情を感じ取ったり、曲からイメージをふくらませたりすることができる。 - 楽曲の雰囲気を感じ取れている。 - 楽曲の背景（作曲者、楽器等）の知識理解。	- 毎回の授業の様子（音程、リズム） - 実技テスト - 鑑賞中の態度 - 鑑賞のレポート - 定期テスト

3. 年間計画

時期	学習内容	学習を通して身につけたい力
1 学期	鑑賞 『フーガ短調』 『春』第1楽章（「和声と創意の試み」第1集「四季」から） 混声3部合唱 『夢の世界を』『翼をください』 ＊読譜を中心に（リズムも） ・学級合唱曲の選曲（鑑賞）	《全学期共通》 ①・忘れ物をせず、準備物をきちんと持ってきている。 ・毎回の授業に意欲的に取り組んでいる。 ・良い姿勢で歌や器楽の練習、演奏に取り組んでいる。 ・授業中に意欲的に発言できている。 ・実技テスト及び定期テストに意欲的に取り組んでいる。 ②・歌唱の声の質（響き）がやわらかく豊かである。 ・頭部を意識し、高く遠くを意識しての発声ができている。 ・歌唱の際に歌詞の意味を考え、明瞭な発音ができるよう工夫している ・毎回での授業での演奏においてフレーズを感じている。適切な場所でブレスができている。 ・実技テストで表情豊かに演奏できている。 ③・毎回の授業の演奏の際に、音程やリズムが正確である。 ・アクセントやリズム、強弱を適切に演奏に活かしている。（音楽記号、標語の理解） ・実技テストで楽譜の表記通りに演奏できている。 ④・鑑賞中の態度が適切で集中できている。 ・鑑賞のレポートをきちんと提出し、自分の感じたことをうまくまとめている。 ・鑑賞曲を聴き、作曲者の意図・心情を感じ取ったり、曲からイメージをふくらませたりすることができている。 ・作曲家についての詳細や、楽曲の歴史的背景をしっかりと理解し、知識としている。
2 学期	・曲想を感じ取って歌おう 『夏の思い出』 ・合唱学級曲の取り組み 混声3部合唱 「学級合唱の発表」 鑑賞 ・交響曲第5番ハ短調	
3 学期	卒業式に向けての取り組み ・校歌『若い緑の歌』 ・三送会の歌 鑑賞 『歌舞伎』 ・合唱曲「君に会えたことに」	

※ 教材曲については、今後の情勢、生徒の実態に合わせて変更する場合があります。

4. 学習の進め方

〈授業〉

1. 授業は週に1時間なので、忘れ物に気を付け、素直な心で集中して授業に取り組みましょう。
2. 歌唱は恥ずかしがらず、大きな声でのびのびと歌えるようにしましょう。
3. パートに別れて練習するときには、全員で協力する気持ちを忘れないようにしましょう。
4. 美しいものを美しいと感じたり、感動したりする気持ちが大切です。
5. 以前から楽器の経験がある人は、楽譜を読む力や器楽演奏にとりかかりやすいということがあります。しかし、中学校の授業の音楽活動でどのように取り組んでいるかが、一番大切です。

〈家庭学習〉

1. 授業中に学習した内容（音楽のきまりや鑑賞曲について）を教科書や楽譜、配布するプリントなどで学習しましょう。
2. 歌唱曲については、実技テストに向けて練習しましょう。

美術 2 年

1. 美術科の学習について

学習のねらい	(1) 主体的に美術の活動に取り組み、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。 (2) 対象を深く見つめ感じ取る力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす。 (3) 自然の造形、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。
主な学習内容	・ 絵画「デッサン」 ・ デザイン「ピクトグラム」「構成美の要素」 ・ 工芸「スクラッチ」 ・ 鑑賞「友だちの作品を鑑賞しよう」「芸術作品の鑑賞」
授業形態	一斉、 或いは班別による。
使用教科書・教材	教科書名： 美術 1、2・3 上下（日本文教出版） 教材名： 美術資料（秀学社）

2. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の内容	評価の方法
美術への 関心・意欲・態度	○ 美術のよさや美しさに関心を持つ。 ○ 楽しく積極的に、美術の活動に取り組むようにする。	・ 学習活動への参加態度 ・ 準備物 ・ 作品の期日内提出 ・ 課題への取り組み
発想・構想の能力	○ 感じる心や想像する力を働かせて、心豊かで創造的な表現の構想をする。	・ 制作のためのアイデアスケッチ ・ 完成作品 ・ 実技テスト
創造的な技能	○ 表現の基礎的スキルを身に付ける。 ○ 多様な表現方法を創意工夫して美しく表現する。	・ 基礎的な練習作品 ・ 完成作品 ・ 実技テスト
鑑賞の能力	○ 自然や美術作品のよさや美しさを感じ取り、味わう。 ○ 作品に対する理解や見方を広げる。	・ 自分や友だちの完成作品の鑑賞 ・ 芸術家の作品鑑賞 ・ 感想用紙の記入内容 ・ 鑑賞作文

3. 年間計画

時期	単元	学習内容	学習内容を通して身につけたい力
1 学 期	絵画	「鉛筆デッサン」	・ 作品をよく観察し、立体感・質感をとらえたデッサンをする。
	デザイン	「ピクトグラム①」	・ イメージをふくらませ、単純化したデザインの計画を立て、美しく制作する。
		「構成美の要素」	・ 構成美の要素を生かしていろいろな発想をし、制作に生かせるようにする。
	鑑賞	「ポスターについて」	・ ポスターの制作手順について理解し、自分の思いを表現した作品が出来るようにする。
	デザイン	「ポスター」(夏の課題)	・ 自分の作品のイメージをふくらませ、配色計画を立てて、美しく彩色する。
2 学 期	デザイン	「ピクトグラム②」	・ 作品のよさや美しさを見つけ合う。
	鑑賞	「作品を鑑賞しよう①」 友人の作品鑑賞 意見交換	・ 作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを理解し、作品のよさや美しさを味わうようにする。
			・ 班や学級で 作品を鑑賞することにより、 コミュニケーション力を高める。
	工芸	「スクラッチアート」 工芸について	・ 用具の使い方を理解し、安全に制作できるようにする。
			・ スクラッチの良さを活かした作品作りが出来るようにする。
3 学 期	鑑賞	「作品を鑑賞しよう②」 芸術作品の鑑賞 友人の作品鑑賞 意見交換	・ 作品のよさや美しさを感じ取り、班で作品に関して意見交換をする。
			・ 班での活動を通して、自分の意見を表明し、コミュニケーション力を高める。

4. 学習の進め方

<授業> 1. 授業の心構えや目標をきちんと意識して、積極的に制作に取り組む。 2. 集中して授業に取り組み、自分の力を十分に出し切ろう。 3. 丁寧に根気よく制作に取り組むように心がける。 4. 準備物をきちんと整え、ゆとりを持って制作に取り組めるようにする。 <家庭学習> ・ 構成美の要素の学びを生かし、ポスターの制作を行う。

保健体育 2年 男子

1. 保健体育科の学習について

学習のねらい	*各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めます。 *各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気付き体の調子を整えるとともに、体力の向上を図り、たくましい心身を育てます。 *運動における競争や協同の経験を通して、公正な態度や進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を身につけます。また、健康・安全に留意して運動をすることができる態度を身につけます。 *個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身につけます。
主な学習内容	*体づくり運動 *器械運動（跳び箱運動） *水泳（クロール・平泳ぎ） *陸上競技（短距離走、ハードル走、リレー、長距離走） *球技（ソフトボール、バレーボール、サッカー、バスケットボール、バドミントン） *ダンス（創作ダンス、現代的なリズムのダンス） *体育に関する知識 *保健
授業形態	体育分野・・・男女別修・少人数・班別などの授業の形態で行います。 保健分野・・・内容によっては、男女共修・男女別修学習を行います。
使用教科書 ・教材	保健体育（大修館） 図解中学体育（あかつき）

2. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の内容	評価の方法
関心・意欲 態度	・運動の特性に関心をもち、楽しさや喜びを味わえるように進んで取り組もうとする。 ・互いに協力して練習や競技をしようとするとともに勝敗に対して公正な態度をとろうとする。 ・練習場の安全や体の調子など、健康・安全に留意して練習や競技をしようとする。 ・運動に適した服装で練習や競技をしようとする。	・出欠の状況 ・忘れ物回数 ・正しい服装 ・授業中の様子 （動作・行動・ 発言・マナー）
思考・判断	・自分の能力に適した課題をもち、その解決を目指して、練習の仕方や競技の仕方を工夫する。 ・グループの中で技能・チーム力向上のために練習の仕方や競技の仕方を工夫する。	・種目の練習状況 ・実技テスト ・ワークシートの記入状況
技能	・運動の特性に応じた技能を身につけるとともに、その技能を高め、競技したり記録を高めたりすることができる。 ・身に付けた技能をグループの中で発揮し、チーム力向上・勝利のために貢献することができる。	・種目の練習状況 ・記録 ・実技テスト
知識・理解	・運動の特性や学び方、技能の構造、合理的な練習の仕方などを理解するとともに、競技や審判の方法を理解し、知識を身につけている。 ・心身の機能は生活経験などの影響を受けながら発達すること、身体と精神は互いに密接な関係にあることを理解し、日常生活の課題解決に役立つ知識を身につけている。	・定期テスト ・授業中の様子 （ゲームの運び方 ・審判 など）

3. 2学年男子 保健体育科 年間計画（順番大幅に変更、状況次第で今後も変更あり）

時期	単元	学 習 内 容	学習内容を通して身につけたい力
1 学期	体 っ く り 運動	・ストレッチ ・体ほぐし運動、集団行動	・安全に留意し、運動することの重要性を理解し、実践できる。 ・決められた集団行動で動くことができる。
	陸上競技 球技	・短距離走・ハードル走 ・バドミントン ・ソフトボール キャッチボール、トスパッティング、 チーム別練習、ゲーム	・正しいフォームを身に付け、記録を向上させることができる。 ・基本技能を応用し、ゲームの中で実践することができる。 ・ゲームを通しルールを理解する。
	保健	・健康な生活と病気の予防	・健康の成り立ちと疾病の発生要因について理解する。
2 学期	器械体操	とび箱	・いろいろな技の特性を理解することができる。 ・技を身に付け、スムーズに演技することができる。
	陸上競技	・持久走 時間走、1000m、2000m	・基本技能を応用し、ゲームの中で実践することができる。 ・ゲームを通しルールを理解する。
	球技	・バレーボール オーバーハンド・アンダーハンドパスレ シーブ、サーブ、簡易ゲーム	・1年生の時より持久力を高め、さらに長距離走の自己の記録を向上させることができる。 ・基本技能を応用し、ゲームの中で実践することができる。 ・ゲームを通しルールを理解する。
3 学期	保健	けがの予防 ・犯罪被害の防止 ・体育理論	・応急手当の意義と手順について理解する。 ・危険を予測し定期利那対策を行うことにより防止することができることを理解する。自然災害への備えと安全な避難について、自分の生活に当てはめて考えることができる。 ・運動やスポーツが心身の発達に与える効果と安全について理解する
	球技	・バスケットボール パス、ドリブル、シュート、ゲーム ・サッカー 1対1、2対2、3対3、ゲーム	・基本技能を応用し、ゲームの中で実践することができる。 ・ゲームを通しルールを理解する。 ・基本を身に付け、試合をすることができる。
	ダンス	・ダンス (現代的なリズムのダンス、創作ダンス)	・恥ずかしがらずに動きの中に自分を出していくことができる。 ・グループでアイデアを出し合い、イメージしたものを表現する。
3 学期	保健	・環境と適応、健康と環境	・生涯にわたって健康を保持するために、体が環境に適応したり許容範囲があったりすることを理解し、環境を維持・改善できる能力を身につける。

4. 保健体育科学習の進め方

1. 決められた正しい服装・着こなしで授業を受けましょう。(見学者は体操服)
2. チャイムが鳴るまでに授業場所に移動し、準備体操を始めましょう。
3. 準備体操の重要性を理解し、体育委員に協力して、みんなで大きな声で号令をかけて正しく体操を行いましょう。
4. 保健体育は動きがあり、できる・できないがはっきりわかる教科です。苦手な種目も得意な種目も積極的に授業に取り組み、努力をしましょう。
5. 体調不良などで見学する場合は保護者の方に見学理由がわかるように記入して印をもらう。

保健体育 2年女子

1. 保健体育科の学習について

学習のねらい	* 各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めます。 * 各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気付き体の調子を整えるとともに、体力の向上を図り、たくましい心身を育てます。 * 運動における競争や協同の経験を通して、公正な態度や進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を身につけます。また、健康・安全に留意して運動をすることができる態度を身につけます。 * 個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身につけます。
主な学習内容	* 体づくり運動 * 器械運動（跳び箱運動） * 水泳（平泳ぎ） * 陸上競技（短距離走、リレー、長距離走、ハードル） * ダンス * 球技（サッカー、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、ソフトボール） * 体育に関する知識 * 保健
授業形態	体育分野・・・男女別修・少人数・班別などの授業の形態で行います。 保健分野・・・内容によっては男女共修・男女別修学習を行います。
使用教科書 ・教材	保健体育（大修館） 図解中学体育（あかつき）

2. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評 価 の 内 容	評価の方法
関心・意欲 態度	・ 運動の特性に関心をもち、楽しさや喜びを味わえるように進んで取り組もうとする。 ・ 互いに協力して練習や競技をしようとするとともに勝敗に対して公正な態度をとろうとする。 ・ 練習場の安全や体の調子など、健康・安全に留意して練習や競技をしようとする。 ・ 運動に適した服装で練習や競技をしようとする。	・ 出欠の状況 ・ 忘れ物回数 ・ 正しい服装 ・ 授業中の様子 （動作・行動・発言・マナー）
思考・判断	・ 自分の能力に適した課題をもち、その解決を目指して、練習の仕方や競技の仕方を工夫する。 ・ グループの中で技能・チーム力向上のために練習の仕方や競技の仕方を工夫する。	・ 種目の練習状況 ・ 実技テスト ・ ワークシートの記入状況
技能	・ 運動の特性に応じた技能を身につけるとともに、その技能を高め、競技したり記録を高めたりすることができる。 ・ 身に付けた技能をグループの中で発揮し、チーム力向上・勝利のために貢献することができる。	・ 種目の練習状況 ・ 記録 ・ 実技テスト
知識・理解	・ 運動の特性や学び方、技能の構造、合理的な練習の仕方などを理解するとともに、競技や審判の方法を理解し、知識を身につけている。 ・ 心身の機能は生活経験などの影響を受けながら発達すること、身体と精神は互いに密接な関係にあることを理解し、日常生活の課題解決に役立つ知識を身につけている。	・ 定期テスト ・ 授業中の様子 （ゲームの運び方 ・ 審判 など）

3. 2学年女子 保健体育科 年 間 計 画（順番大幅に変更、状況次第で今後も変更あり）

時 期	単元	学 習 内 容	学習内容を通して身につけたい力
1 学 期	体づくり 運動	・ストレッチ ・体ほぐし運動 ・集団行動	・安全に留意し、運動することの重要性を理解し、実践することができる。 ・決められた集団行動で動くことができる。
	器械運動	・マット運動	・基本動作や基本技能を身につける。 ・いろいろな技の特性を理解することができる。 ・技を身に付け、スムーズに演技することができる。
	球技	・ソフトボール	・いろいろな技の特性を理解することができる。 ・基本技能を身に付け、ゲームの中で実践することができる。
	陸上競技	・短距離走・ハードル走	・ゲームを通してルールを理解することができる ・正しいフォームを身に付け、記録を向上させることができる。
	保健	・健康な生活と病気の予防	・健康の成り立ちと疾病の発生要因について理解する。
2 学 期	器械運動	・跳び箱運動	・いろいろな技の特性を理解することができる。 ・技を身に付け、スムーズに演技することができる。
	球技	・バレーボール オーバーハンド・アンダーハンドパス スレシブ、サーブ、簡易ゲーム ・バドミントン	基本技能を応用し、ゲームの中で実践することができる。 ・ゲームを通してルールを理解する。
	陸上競技	・持久走（2000m）	・1年生の時より持久力を高め、さらに長距離走の自己の記録を向上させることができる。 ・応急手当の意義と手順について理解する。
	保健	・けがの予防 ・犯罪被害の防止 ・体育理論	・危険を予測し定期利那対策を行うことにより防止することができることを理解する。自然災害への備えと安全な避難について、自分の生活に当てはめて考えることができる。 ・運動やスポーツが心身の発達に与える効果と安全について理解する。
	球技	・サッカー ボールリフティング、キック、パス、シュート、ゲーム	・基本技能を応用し、ゲームで実践することができる。 ・ゲームを通してルールを理解する。
3 学 期	球技	・バスケットボール パス、ドリブル、シュート、ゲーム	・基本技能を応用し、ゲームの中で実践することができる。 ・ゲームを通してルールを理解する。
	ダンス	・ダンス (現代的なリズムのダンス、創作ダンス)	・恥ずかしがらずに動きの中に自分を出していくことができる。 ・グループでアイデアを出し合い、イメージしたものを表現する。
	保健	・環境と適応、健康と環境	・生涯にわたって健康を保持するために、体が環境に適応したり許容範囲があったりすることを理解し、環境を維持・改善できる能力を身につける。

4. 保健体育科学習の進め方

1. 決められた正しい服装・着こなしで授業を受けましょう。(見学者は体操服)
2. チャイムが鳴るまでに授業場所に移動し、準備体操を始めましょう。
3. 準備体操の重要性を理解し、体育委員に協力して、みんなで大きな声で号令をかけて正しく体操を行いましょう。
4. 保健体育は動きがあり、できる・できないがはっきりわかる教科です。苦手な種目も得意な種目も積極的に授業に取り組み、努力をしましょう。
5. 体調不良などで見学する場合は保護者の方に見学理由がわかるように記入して印をもらう。

技術 2 年

1. 技術科の学習について

学習のねらい	実践的・体験的な学習活動を通して、ものづくりに関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、技術が果たす役割について理解を深め、それらを適切に活用する能力と態度を身につけます。
主な学習内容	A 材料と加工に関する技術 ○材料の特徴 ○製品の設計 ○部品加工 ○組立てと仕上げ
授業形態	教室・技術室で（学級単位の）一斉授業・実習を行います。 実習では、4 人班での活動やペア作業を行います。
使用教科書・教材	教科書：技術・家庭 技術分野(東京書籍) 技術・家庭総合ノート 技術分野(明治図書) 教材：パインスタンダード(スーパーキング)

2. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の方法	
生活や技術への関心・意欲・態度	ものづくりに関する技術について感心をもち、生活をよりよくするために知識と技術をすすんで活用しようとしている。	- 総合ノートの記入内容 - 授業での発言 - 活動状況の様子 - 忘れ物 - 定期テスト
生活を工夫し創造する能力	生活と技術とのかかわりについて見直し、課題を見つけ、その解決のために技術を適切に活用して、工夫し創造することができる。	- 総合ノートの記入内容 - 授業での発言 - 活動状況の様子 - 作品のできばえ - 定期テスト
生活の技能	ものづくりに必要な基礎的な技術を身につけ、その技術を安全で適切に活用することができる。	- 総合ノートの記入内容 - 活動状況の様子 - 作品のできばえ - 定期テスト
生活や技術についての知識・理解	生活や産業の中での技術の役割について理解しものづくりに必要な基礎的な知識を身につける。	- 総合ノートの記入内容 - 授業での発言 - 定期テスト

3. 第2学年 技術科 年間計画

時期		学 習 内 容	学習内容を通して身につけたい力
1 学 期	前期	○材料の特徴 ・材料の特徴を調べ、まとめる ○製品の設計 ・製品の構想と製図 ○部品加工 ・製作の準備 ・けがき、切断、切削、穴あけ	・生活の中で技術の果たす役割について考え、技術の発展とともに生活がどのように変化してきたかを知ろうとする態度を身につける。 ・木材(金属・プラスチック)の特徴について理解できる。 ・等角図やキャビネット図や第三角法による正投影図のかき方を知り、立体をこれらの図法で表示することができる。
		○組立てと仕上げ ・表面の仕上げと組立てと塗装 ○パソコンを使用して製図をかく	・工具や工作機器を適切に使い、安全面に気をつけて計画的に能率よく作業することができる。 ・部品加工・組み立て・仕上げの基本的な技術を身につける。 ・図形処理ソフトを使ってパソコンで製図をかくことができる。
		※1・3・5組が技術を学習します。(2・4・6組は家庭を学習します)	
2 学 期	後期		
		※同上の内容で2・4・6組が技術を学習します。(1・3・5組は家庭を学習します)	
3 学 期			

4. 学習の進め方

<授業> ○授業に積極的に参加しよう 自分の生活を振り返り、自分のこととして結びつけましょう。人の意見を聞いたり教え合ったりすることで、新しいアイデアを手に入れ、実習では生活に役立てられるように基礎的な技術を身につけましょう。 ○必要な知識は覚えてしまう 基礎的なことや用語を覚えていないと、説明されても「わからない!」となってしまいます。基本的なことや用語は早く覚えてしまいましょう。 ○板書の内容をしっかりと書き留める 定期テストは、前期は2学期中間テスト、後期は学年末テストに実施です。テスト前に総合ノートを見直したとき、意味がしっかりとわかるように、ていねいに書いておきましょう。 <家庭学習> ○実践して生活に生かそう 学んだ知識や技術を自分の生活場面でどんどん活用しましょう。そうすることで、知識や技術の定着が図られます。

家庭 2 年

1. 学習について

学習のねらい	実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的な知識と技術を身につけるとともに、生活をより良くしようとする態度を身につける。		
主な学習内容	献立作りと食品の選択 調理と食文化	家族・家庭と地域 幼児の生活と家族 これからの私と家族	
授業形態	一斉授業だけではなく、班での学習活動、 校外活動 もします。		
使用教科書	教科書：新しい技術・家庭 家庭分野（東京書籍）		

2. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	食生活	家族と家庭生活	評価の方法
生活や技術への関心・意欲・態度	食品の選択と簡単な日常食の調理について、関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。	自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて関心を持ち、学習活動に取り組んでいる。 幼児の遊びや幼児の発達と家族のかかわりについて考えようとしている。	忘れ物 提出物 授業の様子 定期テスト
生活を工夫し創造する能力	日常食の調理にあたり、材料の扱い・盛りつけ・付け合わせ等を工夫できる。	幼児の心身の発達に応じた遊びを考え、遊び道具や遊び方、対応の仕方を工夫できる。	授業の様子 課題の記入 提出物 定期テスト
生活の技能	安全や作業の手順に注意して基本的な日常食の調理ができる。	幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりに関する基礎的な知識を身に付けている。	作品 実技テスト 定期テスト
生活や技術についての知識・理解	食品の選択と簡単な日常食の調理に関する基礎的な知識を身に付けている。	幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりに関する基礎的な知識を身に付けている。	定期テスト

3. 年間計画

時期	学 習 内 容	学習内容を通して身につけたい力
前期	私たちの食生活 ・献立作りと食品の選択 ・調理と食文化	・食品の特徴を知り，時期や献立に応じて適切に選ぶことができる。 ・表示の見分け方を理解できる。 ・魚や肉，野菜などの特徴と調理上の性質を理解できる。 ・安全や作業の手順に注意して日常の食事の調理ができる。 ・基本的な調理操作をグループで協力してできる。
	私たちの成長と家族・地域 ・家族・家庭と地域 ・幼児の生活と家族 ・これからの私と家族	・自分の成長をふり返り，家族との関わりを考える姿勢をもつ。 ・幼児にとっての遊びの意義を理解する。 ・幼児の心身の発達の概要を理解する。 ・基本的な生活習慣の形成の重要性について理解する。
*前期 1・3・5組は技術科を学習します。(2・4・6組は家庭科) *保育体験の時期により，学習内容が前後する場合があります。		
後期		
*後期 同上の内容を1・3・5組が学習します。(2・4・6組は技術を学習します。)		

4. 学習の進め方

<授業> 1. 授業に積極的に参加しよう 自分の生活を振り返り，自分のこととして結びつけ考える。教えあい学びあう中で，よりよい思考を手に入れ，基礎的な技術を身につけよう。 2. 板書や内容を書き留める 定期テストは前期末(2学期中間)または後期末(学年末)。テスト前の見直しで苦労しないよう，授業中しっかり取り組もう。 <家庭学習> 3. 実践して生活にいかそう 自分の身のまわりのことができるようになることは，自立に向けて大きな自信になる。家でもお手伝いをするこで，少しずつ技術を身につけていこう。

英語 2年

1. 英語科の学習について

学習のねらい	英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。
主な学習内容	文法事項 ・一般動詞の過去形 ・be動詞の過去形 ・過去進行形 ・未来形 ・動名詞 ・不定詞 ・助動詞 ・接続詞 ・比較表現 ・受動態 など 会話表現 ・道案内 ・条件や仮定 ・しなければならないことを説明 ・許可 ・電話 ・買い物
授業形態	教室で、ティームティーチングの形で行います。YEF（四日市市英語指導助手）が授業に加わってのティームティーチングの形をとることもあります。 単語・教科書本文の音読練習、演習問題などで、ペアやグループの形態をとります。
使用教科書 ・教材	NEW CROWN 2 ENGLISH SERIES New Edition（三省堂） 新英語のワーク 2年（明治図書出版） 英語パーフェクトノート 2年（学宝社） 3分リスニング 中級（正進社）

2. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の内容	評価の方法
コミュニケーション への関心・意欲・態度	- 積極的に英語を使って相手とのコミュニケーションを図ろうとしている。 - ペアやグループでの会話練習で相手に伝えようとしたり、相手の話すことを理解しようとしたりしている。 - 積極的に音読練習をしようとしている。 - 相手を意識して会話しようとしている。 - 工夫されたノート作りをしている。	授業中の様子 パフォーマンステスト の様子 提出物の内容
外国語表現の能力	- 内容を理解しながら音読することができる。 - 習った英語表現を使って自分のことを話すことができる。 - 英語の質問に対して、英語で的確に答えることができる。 - 自分のことや与えられたテーマについて英語で書くことができる。	授業中の様子 定期テスト パフォーマンステスト
外国語理解の能力	- 英語を聞いて内容を理解することができる。 - 英語で書かれている内容を読みとることができる。	授業中の様子 定期テスト リスニングテスト
言語や文化についての 知識・理解	- 英語の意味や使い方を理解することができる。 - 外国についての様々な文化・習慣に興味・関心を示し、理解している。	授業中の様子 定期テスト 単語テスト Toki10

3. 年間計画

時期	学 習 内 容	学習内容を通して身につけたい力
1 学 期	Lesson 1	絵日記を読んで、内容を読み取ることができる。
	Let's Talk 1	相づちを打ちながら、道案内の会話をするすることができる。
	Lesson 2	be 動詞の過去形・過去進行形・接続詞 when を理解し、使うことができる。
	Let's Listen 1	動物に関するテレビニュースを聞いて、話の全体的な内容を聞き取ることができる。
	Let's Talk 2	If を使い「もし～ならば」と条件や仮定を表す会話をするすることができる。
	Lesson 3	未来をあらわす表現や接続詞 that を理解し、使うことができる。
	Let's Listen 2	世界の天気予報を聞いて、聞き手が必要な情報を聞き取ることができる。
	Let's Talk 3	must / must not を使った文を理解し、会話をするすることができる。
	Project 1	好きな有名人についての紹介ポスターを作ることができる。
2 学 期	Lesson 4	There is (are) ～を使った文や動名詞を理解し、使うことができる。
	(1学期より移動)	
	Let's Listen 3	観光案内所での説明を聞いて、話し手が伝えたいことを聞き取ることができる。
	Let's Talk 4	have to ～の表現を使った文を理解し、会話をするすることができる。
	Let's Read 1	日本の古典芸能（狂言）を英語で楽しむことができる。
	Lesson 5	動詞（give など）+ A + B、動詞（look など）+ A を理解し、使うことができる。
	Let's Listen 4	空港でのアナウンスと飛行機内でのアナウンスを聞いて、 聞き手が必要な情報を聞き取ることができる。
	Let's Talk 5	許可を求めたり、承諾したりする表現を理解し、会話をするすることができる。
	Lesson 6	不定詞を理解し、使うことができる。
	Let's Listen 5	留守番電話の英語のメッセージを聞いて、 話し手が伝えたいことを聞き取ることができる。
	Let's Talk 6	依頼したり、承諾したりする表現を理解し、会話をするすることができる。
	Project 2	将来の夢とその理由についてのスピーチ原稿を書き、発表することができる。
	Lesson 7	比較級・最上級を理解し、使うことができる。
	Let's Listen 6	プレゼンテーションを聞いて、話を全体的な内容を聞き取ることができる。
3 学 期	Lesson 8	受け身形を理解し、使うことができる。
	Let's Talk 7	苦情を言ったり、提案したりする表現を理解し、会話をするすることができる。
	Project 3	自分の街のガイドブックを作成することができる。
	Let's Read 2	平和について書かれた物語を読み、平和への社会貢献について考えることができる。

4. 学習の進め方

わからないことをそのままにせず、辞書を使って自分で調べたり、先生に確認したりしましょう！

<家庭学習> 予習・復習をきちんとやりましょう。

- ・単語や本文の練習は、発音しながら、意味を考え書くようにしよう。
- ・既習の単語リスト、本文プリントを活用し、何度も繰り返し音読練習しよう。
- ・学習した文法事項を定着させるために、教科書や問題集などを使い繰り返し学習しよう。

<授業> 毎時間の授業を集中して受けよう。

- ・間違いを恐れずに会話練習をしよう。
- ・ペアやグループでの活動に積極的に参加しよう。
- ・英語を使って YEF（四日市市英語指導助手）と積極的に会話をしよう

「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標(5領域)

四日市市立常磐中学校

学年	ステップ	Listening	Speaking		Reading	Writing
			やり取り	発表		
3	6	長めの英文(物語やニュース等)を聞いて、全体の概要や内容を正確に聞き取ることができる。	社会的な話題について、考えたことや感じたことなどを、その理由とともに即興で述べることができる。	社会的な話題について、メモやキーワードを活用しながら、考えたことや感じたことなどを、その理由とともに話すことができる。	長めの英文(物語文や説明文等)を読んで、その概要や要点を理解するとともに、それに対しての自分の考えを持つことができる。	身近なテーマについて、自分の思いなどが伝わるように、導入・展開・結論の構成を考えながら、まとまりのある文章を書くことができる。
		Let's Listen 2, 3, 5	Lesson 4 Lesson 6	Project 3	Lesson 4 Read Lesson 7 Read	Lesson 2 Write Project 2
	5	まとまりのある少し長めの英文(会話やアナウンス等)を聞いて、全体の概要や内容の要点を聞き取ることができる。	日常的な話題について、自分の思いなどを伝えたり、相手からの質問に答えたりして、会話を継続・発展させることができる。	日常的な話題について、自分の思いなどを整理し、聞き手の反応を確認しながら、まとまりのある内容を話すことができる。	まとまりのある英文を読んで、あらすじや大切な部分などを読み取り、自分の言葉で内容について簡単に要約することができる。	身近な人や事物の説明などを、文のつながりや文の構成などを考えながら、まとまりのある文章を書くことができる。
		Let's Listen 1, 4	Lesson 3 Speak Lesson 7 Speak	Lesson 1 Speak Lesson 5 Speak	Let's Read 1 Lesson 6 Read	Project 1 Lesson 6 Write
2	4	繰り返しや言い換えを交えて話されれば、まとまりのある英文(身近な話題等)を聞いて、必要な情報を聞き取ることができる。	日常的な話題について、自分の思いなどを伝えたり、相手からの質問に答えたりして、会話を継続させることができる。	日常的な話題について、自分の思いなどを、話の構成を考えながら話すことができる。	まとまりのある英文(物語文や説明文等)を読んで、その概要や書き手の意向を読み取り、要点を把握することができる。	自分の興味のある事柄について、自分の考えを理由をつけて書くことができる。
		Let's Listen 3～7	Let's Talk 2, 5, 7 Lesson 1 Speak Lesson 4 Speak	Project 2 Lesson 7 Speak	Lesson 6 Read Lesson 7 Read Lesson 8 Read	Project 2 Project 3
	3	繰り返しや言い換えを交えて話されれば、過去の出来事や未来の予定について話された英文を聞いて、情報を適切に聞き取ることができる。	関心のある事柄について、即興での会話を継続させることができる。	関心のある事柄について、メモやキーワードを活用しながら、即興で話すことができる。	英文の内容を理解しながら黙読したり、内容が伝わるように工夫して音読したりすることができる。	自分の興味のある事柄について、基本的な情報をまとまりのある文章で書くことができる。
		Let's Listen 1, 2	Let's Talk 1, 6 Lesson 7 Speak	Project 1 Lesson 2 Speak	Let's Read 1 Let's Read 2	Lesson 5 Write Project 1
1	2	ゆっくりはっきりと話されれば、自己紹介や身近な話題についての短い英文を聞いて、話し手の伝えたいことを理解することができる。	日常的な話題について、自分の思いなどを、よく使う語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。	日常的な話題について、事実や自分の思いなどを、メモやキーワードを活用しながら、よく使う語句や文を用いて、まとまりのある内容を話すことができる。	図や写真などを手がかりに、身近な話題についての短い文章を読んで、その概要や要点を把握することができる。	英文の書き方の決まりに従って、身近な人や物を紹介する文章を書くことができる。
		Let's Listen 1～5	Lesson 1 Let's Talk 3～9	Project 3	Lesson 7 Read Lesson 8 Read Lesson 9 Read	Project 2
1	1	ゆっくりはっきりと話されれば、簡単な英語を聞いて、具体的な行動に移すことができる。	関心のある事柄について、よく使う語句や文を用いて伝え合うことができる。	関心のある事柄について、教師のサポートがあれば、メモやキーワードを活用しながら、よく使う語句や文を用いて話すことができる。	身近な暮らしに関わる単語や簡単な文について、正しい発音で読むことができる。	アルファベットの大文字・小文字や身近な暮らしに関わる単語、簡単な文をブロック体で正しく書くことができる。
		Classroom English Lesson 4	Let's Talk 1～2 Lesson 7 Speak	Project 1	Get Ready 1, 2, 4 Lesson 1, 2	Get Ready 3, 5 Lesson 1, 2